

男と女が共に参画する社会

今年、男女共同参画社会基本法が制定されて十年目を迎えます。同法によると、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会を、男女共同参画社会といいます。

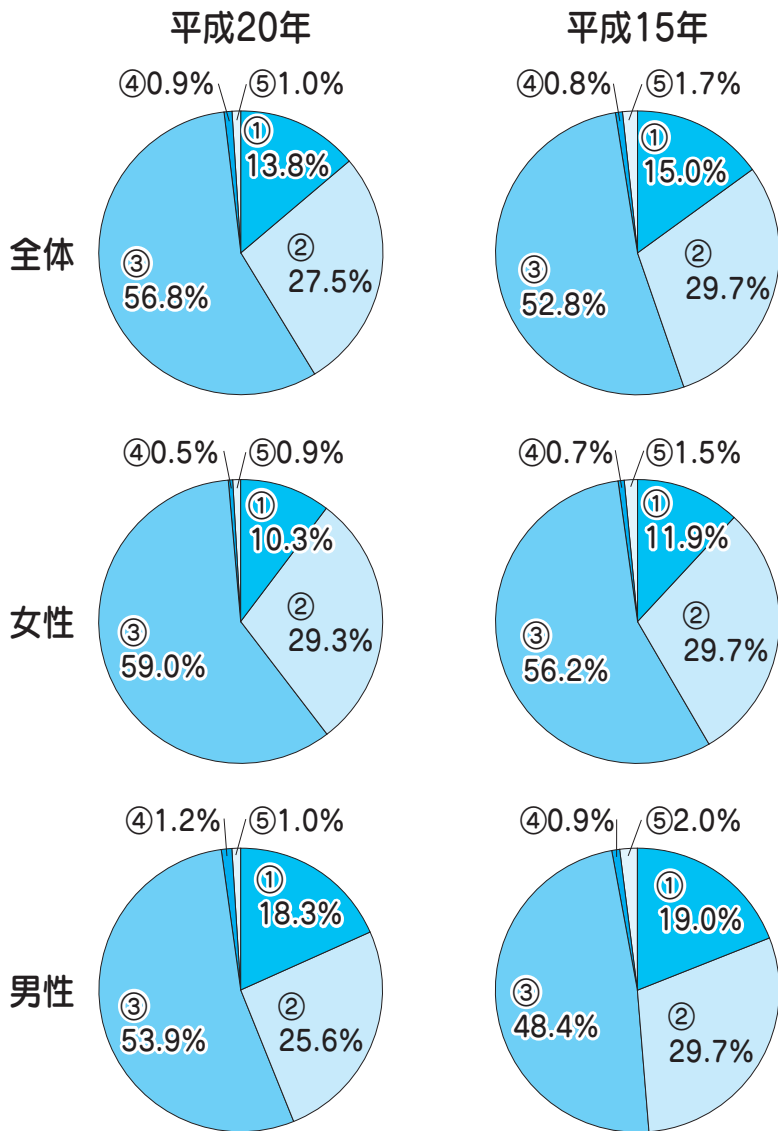
昨年七月に市内在住の成人三千人を対象に実施した、川越市男女共同参画に関する意識調査。この結果から主なものを取り上げて、男女共同参画社会の実態についてお知らせします。

問い合わせ：男女共同参画課・TEL 224-5723

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか？

凡例

- ① 思う
- ② どちらともいえない
- ③ そうは思わない
- ④ わからない
- ⑤ 無回答



性別による固定的役割分担とは？

上のグラフで示した設問のよって、「男は〇〇」「女は〇〇」という考え方を、性別による固定的役割分担といいます。平成15年と同20年を比較すると、性別による固定的役割分担を否定する意見は、全体で4ポイント増えています。一方、肯定する意見は1ポイント程度しか減少していません。

また、男女の意識の違いが明確になった調査結果が、左ページのグラフです。4割を超える女性が、男性は優遇されていると答え、ほぼ同じ割合の男性が、男女は平等だと答えています。家庭において、男性が思っているほど、女性は平等だと思っていないのです。ジェンダーとは？

さまざまな取り組みにより「男女平等」が進んだといわれても、実際にはそう感じていない人がいます。その要因の一つと考えられているのが「ジェンダー」です。これは、生物学的な性別を表すものではなく、社会的・文化的に形成される性別です。

ジェンダーは、この言葉自体に善悪はありません。しかし、それにとらわれすぎると「男のくせに」とか「女の



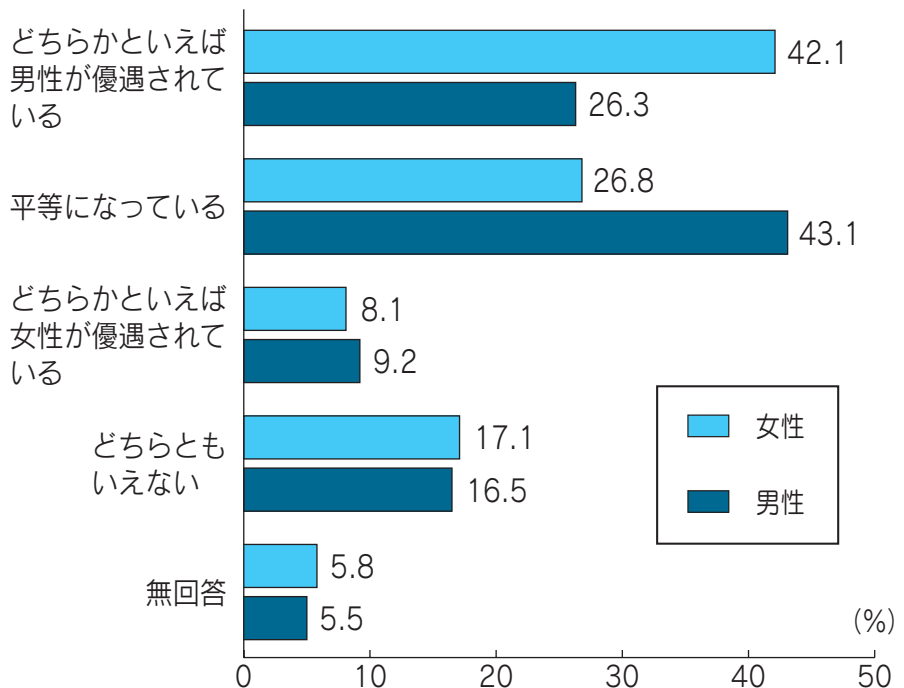
早めが効果的！ 問題解決のために 相談しませんか？

女性を取り巻く問題を共に考え、女性のさまざまな悩みに対応する相談窓口があります。

例えば、肉体的・精神的被害を受けている相談者は、言葉で自分の気持ちを伝えることが難しくなります。この場合、相談員は「よく来てくれましたね」と話すことから始めます。そして、相談者が自分の状況を認識し、問題解決の道を見つけられるよう、一緒になって考えます。

気になる問題や悩みのある方は、一度相談に来てください。相談は、女性活動支援のひろば（クラッセ川越5階）・女性会館・男女共同参画課（本庁舎3階）で行っています。詳しくは、毎月25日発行の広報川越・市民相談案内をご覧ください。

家庭生活において、男女は平等になっていると思いますか？



くせに」という考え方になります。このような考え方は、個人の意思決定を妨げる場合があります。男女共同参画社会とは、ジェンダーに関係なく、自分の意思で行動や物事を決めることができる社会です。

男女共同参画社会の実現に向けて

本来仕事は、性別を理由として役割が決まるものではありません。また家庭でも、妊娠・出産など生物学的な性によるものを除けば、性別で役割は決まりません。家事・育児などを、家族みんなで協力し合って行うことが、男女共同参画の第一歩です。

ワーク・ライフ・バランスという考え方があります。これは、男女が共に労働と家庭責任を分かち合い、調和させていくことです。男女が対等な社会の構成員として自分らしく生きるとともに、家庭生活においても互いに自立し、支え合っていく……。そんな社会の実現を、目指していきましょう。